

# エリアナ・パヴロバによるバレエ移植の手法 ～パヴロバ・バレエスクールについて～

早稲田大学大学院生 川島 京子

## 1. 研究目的及び方法

エリアナ・パヴロバ<sup>1</sup>(1897-1941)について、これまでの先行文献は、彼女の波乱に満ちた生涯に焦点を当てたものが多く、舞踊学からの考察、資料的現実性が欠けていたといえる。本研究は、エリアナをバレエ界に弟子を残したことを以って日本へのバレエ移植者と捉え、いかなる手法で弟子を輩出したのかを現存する第一次資料を元に考察する。また、バレエが政府の政策としてではなく、一人の亡命者を通じて移植された日本バレエの特殊性、さらにエリアナの手法が現在に至るまで日本バレエの特徴となっている点にも注目する。

## 2. 結果考察

### (1)パヴロバ・バレエスクール概略史

第一期(1919初来日～1924)横浜ゲーテ座を中心に、浅草、有楽座、帝劇に出演するが、バレエスクールを立ち上げる動きはなく、社交ダンス教師、映画出演など自らの収入の糧として柔軟な活動をしている。21年露西亜舞踊劇協会を設立した澤静子(南欧商会)により活動全般を支えられる。関東大震災で活動を断念し上海へ渡る。

第二期(1925再来日～1932)澤ら支援者の呼びかけにより再来日。澤家の別荘である鎌倉に滞在、七里ガ浜に107坪のバレエスクールを開校するが、久野タマ(潤光学園)の資金援助を受け532坪の隣地へ移築を計画。32年の完成まで年一回の日比谷音楽堂での定期公演と巡業。

第三期(1933帰化～1941)七里ガ浜と蚕糸会館でバレエスクール開始。潤光学園と大森高等音楽学院(三浦泰)でバレエを教え定収入を得る。帰化(正式な許可は37年、霧島エリ子)。35年三浦泰が白鳥会を設立して以降、年二回の定期公演となり本格的に軌道に乗り始める。40年、永年の目標であった『白鳥の湖』を一幕仕立てで上演。41年慰問先の南京で死亡。

以上、3つの段階を経て発展。支援者達のマネージメントによりバレエスクールの体制が整った。

### (2)学校制度

入門後3年目に「自作自演」を発表させ、卒業、独立を許可。卒業後も「賛助出演」によって師弟のラインを残している。また、第二期には内弟子制度が行われ、芝麗子、東勇作、橘秋子などが、内弟子として家事全般を受け持っていた。この制度は、巡業が多かったこと、鎌倉へ通うのが遠かったことから始まったが、移築したバレエスクールが完成し巡業を打ち切ったこと、東京蚕糸会館

に稽古場を持ったことで取りやめた。その他、貝谷八百子独立の際には、「瀕死の白鳥」を贈っており、62年のプログラムには、「数多い門弟の中でも、特にエリアナが目をかけ俊才だけにしか、エリアナ“瀕死”の奥儀は教授しなかった」とあり、作品の伝承という観念が見受けられる。

### (3)指導法

肩書き紹介として「旧露都帝室舞踊師範」「旧露国帝室技芸員」など帝室舞踊学校、マリンスキー劇場出身という説明が多い。しかし、ワガノワ・バレエ学校に残る名簿に彼女の名は見つからず、本人側から出された経歴紹介にもそのような内容はない。指導法を探る資料として、昭和元年頃の稽古風景の映像があり、そこからある程度の正統性が伺えるが、入学申込書と上演プログラムを照らし合わせた結果、初舞台までの期間が短く、カリキュラムよりも実際の舞台を踏むことを優先し、作品を仕上げながら技法を身につけてゆく曲目仕上げの傾向があるといえる。

## 3. 結論

パヴロバ・バレエスクールの歴史、学校制度、そして指導法を考察した結果から、バレエ移植(=弟子を輩出)の手法として次の点が挙げられる。1. 家元制度に形式だけでも同化したこと。2. ダンサー、教師、振付家のすべてを兼任できる形に育て生徒の独立を奨励した方針。3. 曲目仕上げの方法で、最低限の正統的な技術を修得させつつも舞台経験を最優先させた姿勢。つまり、日本人にとって受け入れられやすいシステムであり、しかも一舞踊家として即活躍できる状態に育て上げたといえる。しかし、これは、エリアナの亡命者としての余裕のなさ、また、多くの支援者を得ることにより、日本伝統芸能の特殊性に抵抗なく同化していったことに起因するといえる。つまり、亡命者としての不遇が、本人の意図とは無関係に、結果的にバレエ移植を成し遂げた。

(配布資料)「エリアナ・パヴロバ来日後の出演公演年譜(含・動向、入門生徒)」他公演プログラム、写真資料、新聞資料など

(映像資料)1926年頃のエリアナ稽古風景

(付記)本発表で使用した資料は、鎌倉市、潤光学園関係者、三浦学園・日本音楽学校ほか多くの関係者より提供を受けた。また、本研究は日本学術振興会科学研究費の助成を受けている。

1 エレーナ・ニコラエヴナ・トゥマンスカヤ・パヴロワ(Елена Николаевна Туманская-Павлова, Elena Nikolaevna Tumananskaya - Pavlova) 氏名は現存するパスポート、ビザから断定。カタカナ表記に関しては、エリアナ側から出された印刷物で一貫している「エリアナ・パヴロバ」を芸名として採用した。